

# 社会福祉法人 新温泉町社会福祉協議会

## 令和7年度 事業計画

### ■推進目標

安心して 生涯暮らせる まちづくりを目指して  
～話しあおう つながろう ささえあおう～

### ■新温泉町社会福祉協議会 理念

「笑顔つながる<sup>まち</sup>地域づくり みんなで広げよう福祉のこころ」

### ■基本方針

1. 住民を基盤とし、地域の関係者等との協議・協働による「安心して生涯暮らせる<sup>まち</sup>地域づくり」をすすめます。
2. 社協事務局の専門性(コミュニティワーク)を発揮し、住民自治の促進、組織化を支援します。
3. 誰もが人格と個性が尊重され、その人らしい生活を支える権利擁護・福祉サービス・介護保険事業をすすめます。
4. 地域共生社会の実現をめざして、責任ある自律した組織経営をすすめます。

企画財務部会(令和6年度)での協議を経て、新温泉町社会福祉協議会の理念と基本方針を定めた。この理念と基本方針を指針に住民主体の地域福祉活動をすすめていく。

また、社会福祉協議会の憲法とも言われる「社協基本要項」の改定について協議され、この度新たな指針として\*社協基本要項2025が定められる。新温泉町社協においても「社会福祉協議会」が何のために在るのか、どんな機能を持つのか。そして社協職員が果たすべき役割とは何かを基本に立ち返り、基本要項が示す“住民主体の原則”に基づき、地域の実情に即して活動していく。

### 「小地域福祉活動の推進」

#### ・地域のニーズ把握

生活支援コーディネーターが各々の担当する地域(浜坂・温泉)で丁寧に住民の声を聞き、自治会ごとの現状を把握し、地域での必要な活動につながるよう支援する。

地域福祉課がチームとなり、地域の福祉ニーズを把握し、住民と共有できるように務める。

#### ・協議の場づくり

「地域との意見交換会」「地域ささえあい隊」といった既存の活動をもう一度見直し、住民が話し合える場づくりを住民と一緒に考えていく。

## 「福祉学習の推進」

- ・住民のニーズに即した「地域福祉研修会」の開催

地域別の区長会や民協でのヒアリングを通して、求められる学習の内容を検討する。

- ・住民学習への参加の推進

「ボランティア活動」「おたがいさん」「ちょボラ大作戦」等の活動の中で学べる機会を最大限に活かせるよう、より多くの住民の参加を推進する。

## 「拠点整備」

- ・浜坂福祉センターの今後について住民や町との話合いの機会をつくる

現在、浜坂地域の福祉の拠点として、また社協の介護事業課の拠点として使用している 浜坂福祉センター(二日市)の老朽化が著しく、今後の方向性について協議する。

浜坂地域の福祉拠点について、住民の意見を吸い上げる機会をつくる。

## 「社協基盤強化」

- ・中期経営計画の整備
- ・諸規程の点検と見直し
- ・監事監査の改善と実施
- ・人材の確保と育成・定着

## 「社会情勢に対応する介護保険事業所の基盤強化」

- ・高齢化社会が進む中、様々な問題がクローズアップされる。それらに対応可能な事業所の体制の基盤強化を図る。
- ・地域住民のニーズにあったサービス提供体制を今年度半ばより実施。社協の介護保険事業所としての役割を明確化する。
- ・職員研修を充実させ専門職としての意識を高める。
- ・地域包括ケアの理念のもと、利用者一人ひとりに寄り添った支援に努める。
- ・重度化を予防し、その人らしく自立した生活が送れることを支援する。
- ・多様な社会環境において孤立や孤独を予防するため、地域をはじめ多職種との連携を強化する。

### **\*社協基本要項2025**

基本要項(1962年)から新・基本要項(1992年)へ転換が行われ、この度「社協基本要項2025」が全社協の地域福祉推進委員会により検討され、第1事案・第2事案での意見集約を経て、2025年3月に制定予定である。社協基本要項は社協自身のあり方を規程し、地域福祉の考え方にも大きな影響力を持つため、今回の内容についても十分な協議が必要との声が高まった。兵庫県社協や社協職員有志からの働きかけがあり、各市町社協においても様々な機会を活用し協議されている。

～地域福祉事業～ 第3次地域福祉推進計画に基づき作成

基本目標1 一人ひとりを認め合う「人づくり」

活動目標		活動項目
1	広報・福祉啓発活動の推進	●社協だより「ほっこりにっこり」の充実
		広報委員(社協内)で紙面検討する協議の場づくり
		●ホームページやSNS等メディアへのアプローチ
		SNS発信の継続に向けて働きかけと振り返り
		●各啓発月間などを活用した福祉課題へのアプローチ
		アプローチ方法を検討する協議の場づくり
2	福祉の視点を醸成する住民学習	●地域住民を対象とした福祉学習(講演会・研修会等)の充実
		地域福祉研修会・福祉委員連絡会を開催
		福祉講演会の開催(11月下旬を予定)
		住民に求められる福祉学習の機会づくり
		●地域を支えるリーダーの育成
		福祉委員、民生委員等における学習機会づくり
3	ボランティア活動の強化	●ボランティアの育成と養成
		福祉の体験・ボランティア期間の実施(7/26-8/9予定)
		(期間内に福祉学習とボランティア体験をおこなう)
		ボランティア運営委員会の活性化
		災害支援ボランティア 学びの場づくり
		各ボランティアグループ活動の支援
		●学校での福祉学習支援
		ほっとかへんネット・各ボランティアグループと協働した福祉学習の支援(車いす体験・高齢者疑似体験・手話教室・点字教室など)
		●ボランティア活動の拠点整備
		拠点整備に向けた内容検討する協議の場づくり

## 基本目標2 みんなで支えあう「地域づくり」

	活動目標	活動項目
1	話合う場づくりへの支援	<p>●地域における見守り・ささえあいの体制づくり (地区懇談会等) 地域福祉研修会等に出てきた課題を持った地域へアプローチ</p> <p>●地域ささえあい隊事業の推進 地域ささえあい推進事業の見直し 既存のささええあい隊や相談があった地域への支援</p> <p>●新しいコミュニティづくりとの協働による地域づくり 既存の協議会支援員との連携 企画課と連携を図り、立ち上げに向けた地域へ支援</p>
2	参加の場、協働の場づくりへの支援	<p>●多様な人や多世代が交流・活躍できる居場所づくりの推進 みんなでえ〜Cookingを通じて多世代交流の場づくり 当事者が集える場づくりへの支援</p> <p>●地域の居場所づくりの推進(サロン等) サロン活動の支援・交流会の開催</p> <p>●多様な社会参加(趣味・就労・生きがいづくり等)に向けた支援 生活支援ボランティア活動の推進 いきいき先生派遣事業の推進</p>
3	つながる場づくりへの支援	<p>●地域内ネットワークとの連携協働の場づくり 地域にある様々なネットワークを調査・視覚化 Google My Mapを活用して地域の集い場把握・視覚化(新)</p> <p>●分野を超えた団体との連携、協働の場づくり 浜坂病院・ささゆりまつり(仮)への協力(6/29予定) 子ども教育課と協働したふくふくマルシェの実施 ほっとかへんネットと協働した各種事業の実施</p>

### 基本目標3 すべての人が安心して暮らせる「まちづくり」

	活動目標	活動項目
1	包括的な相談支援体制の構築	<p>●相談支援体制の充実と権利擁護体制の整備</p> <p>心配ごと相談の常設 相談支援体制の充実をはかる社協内の体制づくり 日常生活自立支援事業の周知・理解促進 新しい支援員の発掘</p> <p>●社会福祉法人連絡協議会による地域における公益的な取組の推進</p> <p>ほっとかへんネット新温泉の事務局として支援 (人材育成、連携・協働、防災への取組み)</p> <p>●生活困窮者自立支援によるネットワーク機能の強化</p> <p>ほっとかへんネットワーカー配置による生活困窮者支援の強化 食支援(フードドライブ)を通じた各機関との連携</p>
2	地域福祉ネットワークの構築	<p>●連携協働の仕組みづくり</p> <p>住民が話し合う場への参画 多様な協議の場(各種協議会・連絡会)への参画 関係機関(行政各課・福祉機関)との連携</p> <p>●地域生活を支えるサービスの充実</p> <p>公的なサービス(介護保険・障がい福祉サービス等)との連携・情報提供 住民の主体的な小地域福祉活動を生活支援コーディネーターが支援 (生活支援体制整備事業) 住民が必要とするサービスの調査</p> <p>●地域福祉推進に向けた職員への知識と質の向上</p> <p>継続的に地域支援をおこなうワーカーの適切な配置要望 人材育成・定着に向けた予算の確保要望</p> <p>●町内の企業、各種団体との連携</p> <p>地域課題の共有と協議に向けた下地づくり</p>
3	災害発生時に向けた体制整備	<p>●地域防災活動の支援</p> <p>地域内活動(防災マップ・防災学習会)への支援 防災リーダー(ボランティアグループ)との協働</p> <p>●災害ボランティアセンター機能の充実</p> <p>ちょボラ大作戦の実施(7/26予定) 災害ボランティアセンター設置マニュアルの確認 災害ボランティアセンター備品整備に向けた調査</p> <p>●災害時における具体的支援策の明確化</p> <p>専門的人材の確保や支援物資の調達に向けた支援策を検討</p>

～在宅福祉サービス～

適切な福祉サービスの利用促進

	活動項目	活動目標
1	介護保険事業の実施	<p>●訪問介護事業所・居宅介護事業(障害)</p> <p>目標:高齢者・障がい者一人ひとりが住み慣れた自宅で自分らしく安心して生活することができる</p> <p>*ヘルパー1人当たりの訪問件数1日平均5件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパー間の連絡を密にし、利用者の生活状況、体調の変化に気づき早期対応できるようにする</li> <li>・他業種との連携を図る</li> <li>・ヘルパーの質の向上</li> </ul> <p>積極的に研修に参加し知識・スキルの向上に取り組む</p>
		<p>●訪問入浴介護事業所</p> <p>目標:快適に過ごせるよう安心、安全な入浴の提供</p> <p>*訪問件数1日平均3件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、家族が安心して在宅生活を継続できるように支援する</li> <li>・職員の知識、技術向上に取り組む</li> </ul> <p>●浜坂デイサービスセンター</p> <p>目標:『やればできる!』を合言葉に～自発性を高める支援～</p> <p>*1日平均利用者数14人(年間平均稼働率約80%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「役に立ちたい」「やってみたい」気持ちを大事にする</li> <li>・「できた!」と喜びや達成感を感じられるような個別ケア</li> <li>・「できること」「できないこと」を見極めてサポートする</li> <li>・機能訓練に特化したサービス提供を開始し、ADLの維持向上を図る</li> </ul> <p>●もみじデイサービスセンター</p> <p>目標:「自立支援」と「個別性を大切に～その人らしく～」</p> <p>*1日平均利用者数14人(年間平均稼働率約80%以上)</p> <p><u>日常生活の充実を図る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ここに来てよかった。」と思ってもらえるよう、利用者に寄り添った支援を行う</li> <li>・利用者の日常生活動作(ADL)を十分理解し、食事や入浴等の支援方法について各関係機関と連携する</li> </ul> <p><u>職員の質の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の基本にかえり、「行動」や「振り返り」が行えるよう研修を充実させる</li> </ul> <p><u>事務の効率を図り、介護業務の充実を意識する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務作業などは職員間で分担しタブレット等の機器を活用することで効率化を図り利用者全体を見渡した介護業務が出来るようにする</li> </ul> <p>●居宅介護支援事業所</p> <p>目標:孤立、孤独に至らないように「予防」に取り組む</p> <p>ご利用者のご家族に寄り添った支援を行う</p>
	*ADL:Activities of daily Living ～日常生活動作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町受託事業「高齢者の見守り訪問」を開始</li> <li>・在宅介護に関する総合的な相談、支援を行う</li> </ul>

2	障がい者の自立を支援するサービス	<b>●障がい福祉サービスの提供</b> 居宅介護・移動支援・生活サポート・訪問入浴・通所介護 <b>●障がい者自立支援協議会への参画</b>
3	在宅福祉サービスの実施	<b>●食事サービス事業の実施(毎週火曜日、夕食)</b> <b>●福祉機器の貸出</b> <b>●ふとん乾燥サービスの実施(6月中旬予定)</b>
4	一人暮らし高齢者のつどい	<b>●「つどい」とおして交流の場づくりを行う(年1回)</b>

### ～県社協受託事業～

	活動項目	活動目標
1	生活困窮者支援	<b>●生活困窮者世帯の見守りと生活課題の把握及び多機関と連携</b>
2	日常生活自立支援事業	<b>●生活支援員連絡会と支援会議の開催</b>
3	生活福祉資金貸付事業	<b>●生活福祉資金貸付、新型コロナ特例貸付の借受世帯への生活状況把握。生活困窮状態が続く世帯への支援。多機関との連携。</b>
4	ほっとかへんネットワーカーの配置	<b>●生活困窮者への相談支援と情報提供</b> <b>●地域における生活課題の実態把握等</b>

### ～町受託事業・指定管理事業～

	活動項目	活動目標
1	家族介護者支援事業	<b>●介護者同士の交流と研修</b>
2	高齢者生活福祉センター もみじホール	<b>●利用者が安心して生活できる場の提供と、健康管理、相談・助言、緊急時の対応などをおこなう</b>
3	生活支援コーディネーターの配置(2名)	<b>●旧町エリアで生活支援を行うワーカーの配置</b>

### ～人材と財源の確保～

	財 源	確保のための目標
1	行政補助金	<b>●行政と連携を密にし、社協事業への理解を得ることで人件費補助の増額へと繋げる</b>
2	一般会費・賛助会費	<b>●社協事業の啓発を行うことで、理解を得る</b> <b>●町内企業へ訪問し、新規賛助会員の獲得を図る</b>
3	善意銀行預託金	<b>●使途の明確化と啓発活動の実施(広報・SNS等)と地域への還元</b>
4	共同募金	<b>●配分事業の見直し、運動啓発</b>

### ～社協組織体制の強化～

	強化項目	内 容
1	理事会の機能強化	<b>●適切な法人運営を可能とするためのガバナンス・内部統制の確立、役員研修会等の実施</b>
2	各課の連携強化	<b>●各課、各事業所が連携・協力して業務を遂行する</b>
3	職員の育成	<b>●資質向上に向けた研修等の取り組み</b> <b>●処遇改善の実施</b>